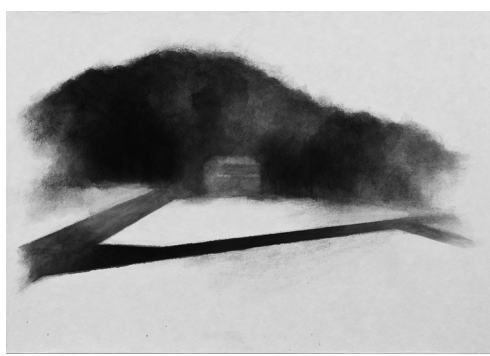


松本絢子 Ayako MATSUMOTO ( 出展作家 ):

1985 年 大阪府生まれ。2009 年 京都精華大学大学院芸術研究科芸術コース卒業。主な展覧会に「冬の引き出し」(2012 / Port Gallery T・大阪 )、 「composed blank」( 2009 / AD&D gallery・大阪 )、「超える先の空白」( 2008 / galerie16・京都 ) 等がある。ayako-matsumoto.tumblr.com



「The blight lines #10」(2009)  
墨、木炭、鉛筆、四国紙、パネル  
515 x 728 mm

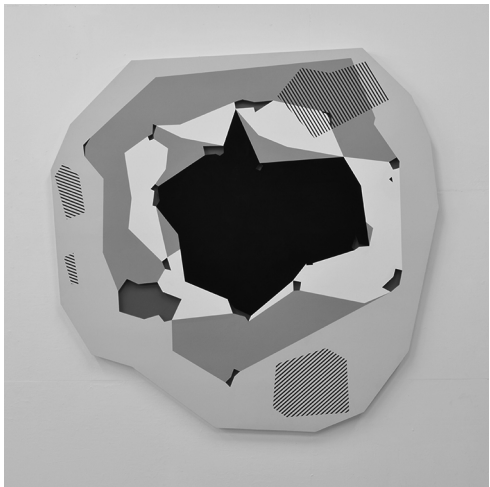
風景を見た記憶は想像以上に曖昧で、時間が経てば薄れていく。写真や映像は風景の詳細を記録できるが、それはあくまで風景の構造であり、その時の私の意識までは写してくれない。

風景を描くことには、写真や映像のような記録性も、地図のような正確さもない。しかし、描く行為は、私とその風景に対峙した時の思いを、やり取りの中からすくい上げてくれるかのようである。空気や湿度、風、音、物の量感や距離感など、その場でしか感じ得ない「感触」を確かめるように、画面に触れていく。

そのように描かれたものを見る事は、また新たな体感を伴っていく。そして、その感触が新たな記憶としてそれぞれの風景になれば、と思う。

山城優摩 Yuma YAMAMOTO ( 出展作家 ):

1987 年 大阪府生まれ。2011 年 京都精華大学芸術学部造形学科洋画コース卒業。主な展覧会に「Connector」(2014 / la galerie・大阪 )、 「HUB-IBARAKI ART COMPETITION」(2014 / 茨木市クリエイティブセンター・大阪 )、岸本沙央梨 × 山城優摩 「Influence - 差響する「」-」(2012 / ギャラリーフロール・京都 ) 等がある。yumayamashiro.com



「sonar 3」(2012)  
アクリル絵の具、パネル  
1830 x 1770 x 48 mm

作品を構想する時、私は身近な土地を徒歩や自転車で巡りながら思考する。そうしていると普段生活する上では気にも留めない退屈な景色に不意に心引かれる瞬間がある。鬱蒼とした茂み、僅かにずれて並ぶ杭や開けた解体跡地、都市の中で別段みる物のないとする 景色で様々な要因が積層し思わぬ変形を遂げた豊かな場として表れる。

絵画の地の上で時には地図を読む様に捉え図形であり空間でもある形や色彩を探る。その集積によってあの名前のない豊かさを湛えた土地の様に固有の場を画面上に描き出したい。

森川穰 Minoru MORIKAWA ( 本展企画 ):

1983 年大阪府生まれ。2007 年切尔西芸術大学 ( ロンドン ) を卒業後、京都市南区にアトリエ兼ギャラリー studio90 を立 ち上げ2012年まで活動。現在は拠点を大阪に移し活動を続ける。自身の展覧会としては、「確かなこと」(2010/ 京都芸術センター・京都 )、「第 24 回 UBE ビエンナーレ」(2011/ ときわ公園・山口 )、「Inverse Perspective Project」(2013/ ロシア現代史博物館・モスクワ )、「Common Sense of the East」(2013/Gallery175・ソウル ) 等がある。また studio90 の企画の他「うつせみ」(2012/ 常懐荘・愛知 ) 等の展覧会企画も行う。minorumorikawa.com

## A Sense of Mapping - 私の世界の測り方 -

森川穰 (ASM 実行委員会代表)

例えば初めて訪れる土地のことを考える。私は方向音痴なので、何度も迷子になり、何度も人に尋ねてようやく目的地に辿り着く。しかし最近スマートフォンで地図アプリがあるので、初めての道でも目的地にまっすぐ向かうことができる。おかげで時間や体力は温存できるのだけど、なんだか物寂しさも感じる。知らない道に出た時のドキドキ、思いがけない風景に出くわした時のワクワク、道を尋ねる時の地元の人とのやりとり。そんなささいな出来事は、ガジェットとにらめっこしながら歩いていると出会うことはできない。それまで自分の頭の中で継ぎ接ぎしていた地図はやがて消え去ってしまった。

松本絢子と山城優摩の作品は、地図の原初的な在り方を再び思い起こさせてくれる。松本は、実際に見た風景を、自分の記憶や意識によって慎重に再構成するようなドロイングを制作している。そこに立ち現れた風景は、写真などでは表現され得ない匂いや空気や音までもも想起させる。山城の作品は、一見何が表現されているのかわからないオブジェ ( または半立体 ) なのだが、私にはアプリで見た街の鳥瞰図が、改めてごちゃまぜにされている印象を受ける。ごちゃまぜにすることで見えてくる新たな風景が新鮮に目に焼き付いてくる。

また彼らの作品を地図と見立てた時、地図の絵画性というのも思い起こさせる。それは常に「描かれている」にも関わらず、人々はそれを絵画とは認識しない。地図は鑑賞の対象ではなく、読まれる対象としての平面である。しかし、時間が経ち、街並も変わればそのアクチュアリティは失われ、一転歴史資料となり、博物館等で鑑賞される対象となる。それでは「読まれる絵画」というのも存在しえないだろうか。例えば絵画を横に寝かしてみる。光に透かしてぼんやりと眺める。鑑賞方法を少し変えるだけで見えてくる絵画の多面性もこの展覧会で表現したい。

二人の作品を見た後の帰り道、地図アプリはしまって、自分の継ぎ接ぎだらけの地図を作りながら歩いてみれば、いつもの道でも新たな発見があるかもしれない。

Gallery PARC Art Competition 2014 #3

## A Sense of Mapping - 私の世界の測り方 -

会期：2014年7月29日(火)ー8月10日(日)  
11:00-19:00 月曜休／金曜 -20:00／最終日 -18:00

作家：松本絢子、山城優摩

企画：森川穰 (ASM 実行委員会代表)

主催・会場：Gallery PARC

関連トークイベント：「地図感覚のこと」  
8月10日 [日] 16:00～  
予約不要・参加無料

出演：平田剛志 (京都国立近代美術館研究補佐員) × 森川穰 (本展企画) × 松本絢子 (本展出品作家) × 山城優摩 (本展出品作家)

## 私 の 世 界 の 測 り 方

a-sense-of-mapping.tumblr.com

SENBON st.

OMIYA st.

INOKUMA st.

HORIKAWA st.

ABURANOKOJI st.

NISHINOTOIN st.

SHINMACHI st.

MUROMACHI st.

KARASUMA st.

HIGASHINOTOIN st.

TAKAKURA st.

SAKAIMACHI st.

YANAGINOBANBA st.

TOMINOKOJI st.

FUYAMACHI st.

GOKOMACHI st.

TERAMACHI st.

KAWARAMACHI st.